

令和4年12月27日
生涯学習・地域学校連携課

新BOP学童クラブの実施時間延長について

1 主旨

新BOP学童クラブでは、小学校の入学後、保護者が勤務時間等の条件を変更するなどの小1の壁の解消に向け、10月から月ぎめ利用にスポット利用を加え、桜小、下北沢小、玉川小、山野小、芦花小の5校の新BOPにおいて、時間延長モデル事業(以下、「モデル事業」という。)を実施している。

モデル事業の実施状況を踏まえ、放課後児童健全育成事業の運営方針が掲げる、子どもひとりひとりの今の成長と育ちを支える「成育支援」を拡大するという観点から、運営体制を整え、支援が必要な家庭が必要な時に利用できるようセーフティネットの役割を果たすため、令和5年4月から全校で実施時間延長を行う。

2 モデル事業の利用状況

- ・ 時間延長に登録する児童数は、クラブによる差が大きいものの、全体としてはモデル事業を開始した10月からスポット利用を中心に徐々に増加し、12月10日時点で、学童クラブに登録する児童の約12.8%(116人)となっている(表1)(表2)。
- ・ 時間延長の登録児童数は月ぎめ、スポット利用をあわせて1校あたりに平均すると23人だが、1日あたりの利用している人数は1.24人で、いざという時の備えとして活用されている実態があると考えられる。(表2)(表3)
- ・ 1日当たり平均利用児童数は、0.5人から2.55人と、クラブによる差が大きい(表3)

表1：利用実績総括表

		桜	下北沢	玉川	山野	芦花	合計
学童登録数	10月1日現在	144	182	131	228	245	930
時間延長登録児童数	月ぎめ 10月3日現在	0	2	0	4	0	6
	12月10日現在	0	3	3	4	0	10
	スポット 10月3日現在	6	14	4	7	23	54
	12月10日現在	7	32	11	19	37	106
月ぎめ利用数(延数)	10月	0	5	0	25	0	30
	11月	0	23	0	12	0	35
スポット利用数(延数)	10月	2	22	4	4	35	67
	11月	1	28	10	15	35	89

表2：時間延長の登録人数（12月10日現在）*カッコ内は当該学童クラブの登録児童数

	桜 (142)	下北沢 (179)	玉川 (125)	山野 (220)	芦花 (239)	計 (905)
月ぎめ登録数 A	0	3	3	4	0	10
スポット登録数 B	7	32	11	19	37	106
登録率 A+B/児童数	4.93	19.55	11.20	10.45	15.48	12.81

※1校あたりの平均登録数：23.2人

表3：時間延長の1日当り平均利用延べ人数（11月） 11月は20日間

	桜 (142)	下北沢 (179)	玉川 (125)	山野 (220)	芦花 (239)	計 (905)
月極 延べ人数	0	23	0	12	0	35
スポ 延べ人数	1	28	10	15	35	89
1日当り利用人数	—	2.55	0.5	1.35	1.75	6.2

※1校あたり1日の平均利用数：1.24人

3 保護者・子どもアンケート結果等について

(1) アンケートの実施について

モデル事業開始後、実施校の学童クラブ登録保護者にアンケート調査を行い、モデル事業に登録している保護者に利用や利便性等を、登録していない保護者には、その理由や今後の意向を確認するためアンケートを実施した。

アンケートの実施方法は、放課後児童システムを利用した。

併せて、新BOP職員が、モデル事業を利用している子どもの状況を確認するためヒアリングを行った。

(2) アンケートの概要

①実施期間 令和4年11月18日(金)～11月30日(水)

②調査対象

・登録者アンケート

調査対象：モデル事業に登録をしている保護者

対象者数 120人 回収率 18%

・未登録者アンケート

調査対象：モデル事業に登録をしていない保護者

対象者数 1,065人 回収率 21%

・子どもへのヒアリング

調査方法：モデル事業を利用している子どもに新BOP職員が聞き取り

(3) アンケート調査結果概要

- ・登録している保護者からは、「急な仕事が入りスポット利用ができて助かった」「延

長があるため心の余裕ができた」「子どもを長時間一人にする不安が軽減した」などが寄せられた。

- 登録していない保護者の約2割が「現在時間延長が必要」と回答しているほか、「次年度は勤務時間が代わるため利用する」「時短勤務でなく働くには延長が必要」「在宅勤務ができなくなったら使う」など、今後利用する意向が示されている。

※ 詳細は別紙を参照

4 今後の実施時間延長の進め方について

令和5年4月から新BOP学童クラブ全校での時間延長を実施することとし、以下の通り運営する。

- モデル事業の実施方法を基本とし、月ぎめとスポット利用を併用して実施する。
- 延長時の職員体制は、事務局長、児童指導、指導員のうち2名により運営する。延長利用者の状況により、対応する人員が必要な場合は、短時間の指導員やプレイングパートナー等を配置して対応する。なお、延長利用者がいない日においては、原則として配置しないこととする。

5 今後のスケジュール（予定）

令和4年12月	ホームページ等に掲載
令和5年 1月以降	保育園、幼稚園等を通じて保護者周知 時間延長について保護者あて周知
4月	実施時間延長の全校開始

実施時間延長モデル保護者アンケート結果【概要】

1 概要

(1) 目的

時間延長事業開始後11月にモデル校において、保護者状況や利便性等を確認し、また生活の状況や次年度以降の意向を把握することにより、全校実施に向けて改善を図るため。

(2) 実施時期 令和4年11月18日(金)～11月30日(水)

①実施状況

	対象者数	回答者数	回収率
登録者	120	22	18%
未登録者	1,065	223	21%

(3) 登録者アンケート調査

①利用の分布と割合

	回答数	割合	1年生	2年生	3年生
1 月ぎめ利用	4	18%	3	0	1
2 スポット	12	55%	8	3	1
3 未利用	6	27%	1	1	4
合計	22	100%	12	4	6

②利用頻度

	回答数	割合	月ぎめ	スポット
1 週1、2回	4	18%	1	3
2 週3、4回	1	5%	1	0
3 週5回	1	5%	1	0
4 月数回	10	45%	1	9
5 未利用	6	27%	0	0
合計	22	100%	4	12

③未利用の理由

- ・利用のタイミングがない。17%
- ・備えとして登録している。83%

④延長の利便性 利用はしやすいか

- ・はい。77%
- ・いいえ。23%

⑤時間延長の利用日はいつ決まるか。

	回答数	割合	月ぎめ	スポット	未利用
1 2週間前	0	0%	0	0	0
2 1週間前	5	23%	2	2	1
3 2、3日前	3	14%	0	2	1
4 前日	14	64%	2	8	4
合計	22	101%	4	12	6

※割合は、小数点第1位以下を四捨五入したため、100%を超える。

⑥登録者アンケートの結果概要

利用頻度はどのくらいか	週1、2回から月数回が6割以上。
登録したが未利用の理由	備えとして登録した方が8割以上。
利用するかどうかいっ決まるか	1週間前から前日までに決まる。その内前日が6割以上。
延長まではどのような対応をしていたか	ほかのサービスを利用。 一人で留守番。 延長の必要がなかった。
生活の変化はあったか	普段と変わらない。 心に余裕ができた。 無理に祖父母に頼まなくてよくなった。
子どもの様子に変化はあったか	変化なしが多数。 本人が楽しいようで帰ってから色々話してくれる。 早く迎えに来てといわれる。

(4) 未登録者アンケート結果概要

延長事業を知っているか	9割5分が知っている。
現在延長が必要か	約8割(79%)が不要、必要は約2割。(21%)
延長利用しない理由	年度途中開始で中途半端。 18時15分までで足りる。 在宅勤務になっている。

	<p>すでに仕事を調整している。 時短勤務にしている。 19時では足りない。など</p>
その他、自由意見	<p>現在、必要ないと考えているが今後必要になった。 時にある延長があると思うと仕事の幅が広がる。 必要な日が出てくるかもしれないので、この仕組みがあることはとても安心。 急な仕事や残業で子どもの帰宅時間に在宅できないときに助かる。 在宅勤務ができなくなったら必ず利用する。 職場が異動になれば勤務時間が変更されるので利用する。</p>

(5)利用している子どもからの聞き取り結果

延長事業を利用している児童に対して、職員が聞き取った。

延長の時間はどうか	<p>先生とお話できて楽しい。 一人残ってもつまらない。 延長利用に関して「楽しい」。 「別に」関心がない。 一人しかいないときは寂しい。</p>
-----------	---